



いきいき茨城ゆめ国体2019 潮来市開催



Vol.21 潮来市立ボートセンター「あめんぼ」の改修

2019年9月開催のいきいき茨城ゆめ国体に向け、潮来市開催競技のオープンウォータースイミング、トライアスロン、ボートのメイン会場となる潮来市立ボートセンター（愛称：「あめんぼ」）の改修を進めています。

ボートセンター「あめんぼ」は、今から45年前の1974年に開催された茨城国体に合わせて前年の1973年に完成し、2002年のインターハイ開催の際に行われた大規模改修により現在の姿になりました。現在は、スポーツ少年団の小学生から、中学校、高等学校のボート部、社会人まで幅広いみなさんの練習会場として使われています。

今回の改修で、屋内外のトイレの洋式化、シャワールームのリニューアル、さらに、隣接する駐車場の舗装工事により、乗用車約100台分の駐車スペースが確保されました。市民の皆様をはじめ、国体で潮来市を訪れる方々をお迎えする体制が整いましたので、ぜひ、会場にお越しください。

いきいき茨城ゆめ国体潮来市実行委員会
 [事務局] 生涯学習課国体推進室（中央公民館内）
 ☎66-0660（潮来市日の出3-11）
<http://www.city.itako.lg.jp/kokutai/>



国体 潮来市

検索



Facebook・Twitter・Instagramでも
 情報発信を行っています。

まちづくり・潮来の自然と歴史を知る

昨年10月につくばで世界湖沼会議が開催され、湖沼やその流域の環境保全の大切さが広く認識されたところです。こうした機運が地域で根付きつつあるなかで、霞ヶ浦流域において日々コツコツと研究や環境保全活動が続けてきた学生・生徒、市民、研究者が最新の成果を報告しあうシンポジウム「霞ヶ浦流域研究2019」が、3月2日（土）に北浦湖畔のレイクエコーで開催されました。口頭発表15件、ポスター発表12件が行われ、市民を含む98名が来場しました。

今回も口頭発表（写真1）の内容はさまざまで、そこがこのシンポジウムならではのユニークなところ。例えば、霞ヶ浦や流入河川の魚類相、絶滅危惧種のキンブナやホトケドジョウ、外来種のアメリカナマズの生態に関する話題。コイ由来の乳酸菌を用いた新しい養殖技術、ニホンウナギの個体数の長期変動、ごた煮干しなどの水産業の話題。霞ヶ浦の湖底地形、流動解析、水質と気候変動と水質の関係、底生生物（ユスリカ類）の長期変動の話題。さらには、霞ヶ浦流域ではないのですが、福島県の帰還困難区域での放射線物質の挙動などのホットな話題まで。

ポスター発表（写真2）では、鉾田第二高校・茨城高校・清真学園高校・越谷北高校の生徒たちや大正大・大同大・茨城大の学生たちを中心に、水生生物の興味深い生態、水質、環境計測の技術などの話題で、会場が盛り上がりました。生徒・学生たちの発表に、プロの研究者が聞き入る場面も！

潮来市の誇れる自然

第41回

公開シンポジウム「霞ヶ浦流域研究2019」が大盛況！

今後も地域の教育研究機関と連携しながら、このシンポジウムを年1回行っていく予定です。こうした機会を通して、地域のみならずと一緒に関ヶ浦流域をはじめ、地域の環境問題のいまとこれからについて考えていきます。

茨城大学広域水圏環境科学

教育研究センター

加納光樹



（写真1）大学生が発表しているところ：絶滅危惧種キンブナの話



（写真2）高校生たちの発表に聞き入る大学生・研究者・市民